

「SE職のフロンティアは地方にあり」

木ノ下勝郎@老 SE

1. はじめに;ひとりのソフトウェア技術者の40数年の仕事遍歴の事例

●情報システム関連のソフトビジネスはどのように変化してきたか？

	1967年～ 1973年	73～86年	86年～ 2002年	2002年～ 07年	07年～
時代状況	→				
システム運用形態	バッチ	バッチ オンライン	クラサバ パソコン	ERP WEB	クラウド
システム構造	計算機	ダム端末+ 計算機	パソコン+ APサーバ+ DBサーバ	ネットワー ク連携	デバイス+ 高速無線+ 仮想サーバ
業務系ユーザーの目的	高速自動計算	伝票/帳票 の機械化	台帳データ の集中管理	対外的な情 報共有	環境変化へ の適応
ソフトウェア工学	なし	構造化手法	データ中心	オブジェク ト指向	SOA 自律??
個人的遍歴	→				
所属	メーカー、初 期ソフトハウ ス	地方の計算 センター	下請零細ソ フト会社	個人コンサ ル会社	非常勤助手 地域社会
業務設計				企業組織	社会
要件定義		PG/SE	SE/PM	ユーザ教育	プロト
設計		PG/SE	SE/PM		プロト
実装	PG	PG/SE	SE/PM	情報処理とデータ処理の 分離アーキテクチャ	
テスト	PG	PG/SE	SE/PM		
運用		PG/SE			
方法論/標準化/教育		社員教育	出版 セミナー	コンサル セミナー	社会システ ム論研究会

この地方の共同計算センターの時代が最も面白かった！！

なぜか？

PG/SEが、ユーザと直接やりとりできて、人間としてひとりひとりの能力がトータルに発揮できる仕事環境だった！

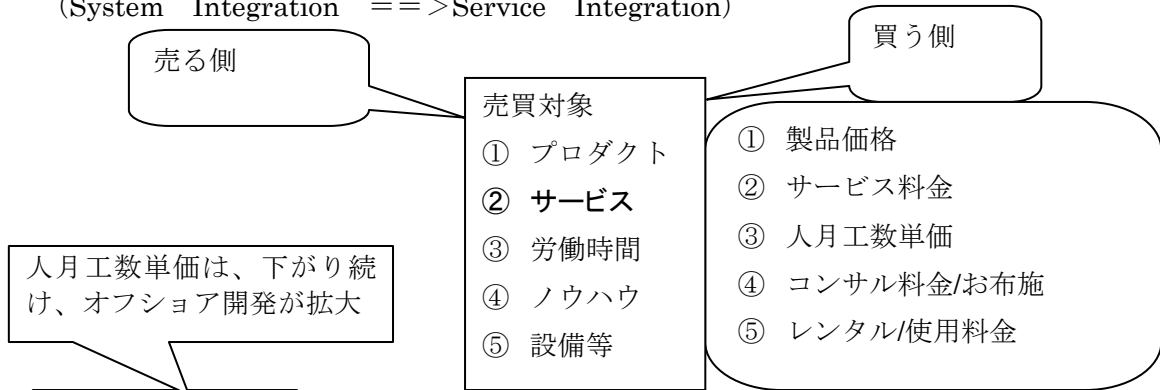
メッセージ:
PG/SE 諸君、生き生きワクワクしたソフト開発の仕事をとれどもどう！

2. メーカー、計算センター、ソフト開発受託会社、コンサル、SI 会社の違い

●どのようなビジネスモデルで、だれに、何を提供して、どのように対価を得るか？

- ①メーカーは、製品（商品；ハード/ソフト/物品などプロダクト）を売る
- ②計算センターは、事務処理の代行サービスを売る
- ③ソフト開発受託会社は、プログラム作成の時間労働を売る
- ④コンサルは、指導、教育、資料提供などの時間換算ノウハウを売る
- ⑤SI 会社は、請負システム一式(プロダクト)を売る/貸す/運用サービスを売る

(System Integration ==>Service Integration)



人月工数単価は、下がり続け、オフショア開発が拡大

問いかけ:
PG/SE 諸君、
生き生き、わくわく、感動をもって仕事をしていますか？

これまでは、売り手と買い手は、別々に独自に損得勘定を管理するビジネス主体であって、Win:Win の共同利益を配分するビジネスモデルではない。生きがい、働き甲斐のあるもっと別なビジネスモデルもありうるのではないか？

メッセージ： これからは Win・Win の共同利益を目指そう！

3. 地方のソフト会社の一般的な現状/惨状

●現状のビジネスモデルの延長で地方のソフト会社の未来は明るいのか？

地方のソフト会社の現状

- ① 地方には仕事がない、あっても既存の縄張り構造が強くて開拓の余地はない
- ② 東京の仕事を持ち帰る案件も少ない、突出した技術をもった会社はまれ
- ③ だから、東京に出て、大手 SI 会社の下請けとして派遣常駐するしかない
- ④ 単価は切り下げられ一報で、社員の宿泊代などコストがかかる
- ⑤ 利益は出ない、独自の社員教育や技術開発の余裕もない
- ⑥ しかし、何とか生き延びるしかない.....

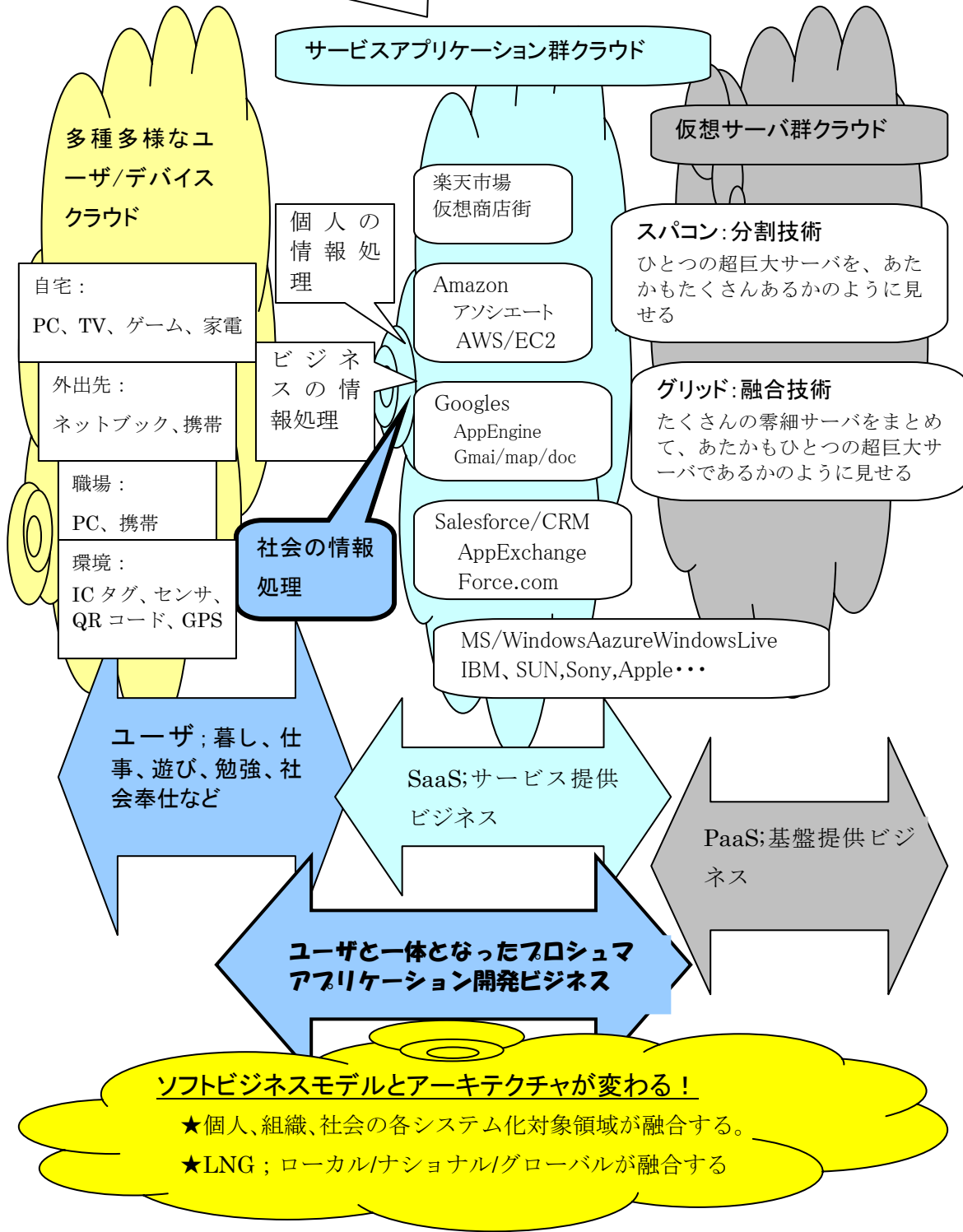
☆下請構造;「「他人の仕事のお手伝い」のお手伝い」のお手伝い」・・・

☆SE 職; プログラムを作れない「お手伝い」仲介業の SE 職に夢があるか？

4. クラウドの意義

- クラウドはソフトウェアビジネスをどのように変えるか？

- ★ きっちり・がっちり構造システムからモヤモヤ・ふわふわ機能システムへの変化
- ★ オンリーワン/ナンバーワンではなく<互助><共助><共同体>志向への変化
- ★ 個人、組織の縦割りを共同体の視点から横串・融合する SE 思考の価値が高まる



5. SEによる地域活性化支援ビジネスモデル創出のチャレンジ事例

ビジネスチャンス到来と思いませんか？

民主党政権になった。日本の仕組みが変わる。コンクリートから人へ、ハードからソフトへ、地域主権に向かう、田舎と都市の関係が変わる、農業が変わる、都市から田舎へ！人の移動方向が変わる。

★3つのタイプ

- ① チャレンジャ
- ② 一般人
- ③ 役人/保守的

チャレンジャ楽天社長の談話：

仮想商店街を始めた当時、NTTやメーカは、小売店に対して、<仮想商店をつくってあげます>というたぐいのものであった。楽天市場は、だれでもネット上でブラウザをいじりながら仮想店舗を出店できる世界で初めての画期的なサービスでした。ベンダーに依存しないで自らが十数年かけて技術を蓄積してきた。

「田舎を元気にする」チャレンジャたちの取り組み事例

★農林水産省の平成20年度、21年度の「田舎で働き隊」事業

<http://www.furusatokaiki.net/fair2009/http://www.take-biz.com/>

<http://www.furusatokaiki.net/inaka/place/#area03>

<http://dandorist.blogspot.com/> http://wind.ap.teacup.com/long_south/

<http://bamboobolt.blogspot.com/>

★鹿児島わたしの実家地域の事例；

～仕事がなければ、自らが仕事を作り出そうという気概；*プロシュマ精神*

～地域の特徴、ブランド化の可能性をもった地域の核を中心にすえた内需循環型地産地消モデルの創業、起業 ==> *産業にあらず、生業の活性化*

～仕事は、「やっかいもの・不便・不都合・欠如・など」の問題解決から生まれる

～田舎の問題；耕作放棄地、手入れされない里山、若者に夢がない、仕事がない

★★「田舎の空家・耕作放棄地・里山などの有効活用に取り組む会」NPO 設立準備中

① 農山村耕作遊撃隊クラブ；参加者募集中

：空家を大学の同好会、サークルの合宿所に活用、ついでに「から芋」耕作

② 地域活性化情報システム研究会；組織化中

：学校、企業、介護センターなどを巻き込んだ動物園情報システムの設計

③ 地域クラウド運営コンソーシアム；構想中

：顔の見える範囲でオープンな地域共同体情報システム運用基盤を提供

※ クラウドの泣き所は、セキュリティ対策！

★ 都会は他人どうし、逃げ隠れできる、リスク負荷が大

★ 田舎は近所つきあい、逃げ場がない、顔が見える

セキュリティよりも機能性、利便性に注力できる！！

6. クラウドへの取り組みは、システム思想の変革が必要である！

★個人システム、企業など組織システム、社会システムの違いは何か？

① **個人システム**

- ・個人の趣味や要求を満足させるためのデバイス、ツール、ソフト、サービスなど
- ・PG/SE は、人間の気持ちや感情や欲望や身体能力をよくよく知る必要がある

② **組織システム**

- ・組織体の目的・手段を、「**がっちり構造・きっちり運用**」の統制原理でシステム化
- ・物理学、数学、論理学などの工学的な因果関係思考を重視する
- ・データの物質化；データベース中心、オブジェクト指向、要素の確実な定義が必要

③ **社会システム**

- ・有象無象の登場人物たちの「**モヤモヤ構造・ふわふわ運用**」のクラウドシステム
- ・予定調和が成立しない**生命思考**が大事、必然よりも偶然性が大前提、要素の曖昧性
- ・情報とデータの明確な分離線引き⇒**情報処理層とデータ処理層の分離アーキテクチャ**

興味のある人は、別途ご連絡ください。

7. SE 職のフロンティアは田舎にあり！

★日本の地域人口分布の再設計の時代が来た⇒地域間競争が激化する

★「人が住んでいるから道路が必要」という時代から

「人が豊かに住める場所」に「人が移る」時代へ新たな国土設計がはじまる

	都会的	田舎的
近代化 明治以降	自由な市民、平等、進歩	身分制、共同体的閉鎖性、掟、停滞
戦争 戦後	戦争と敗戦 国に破れ	疎開、引揚げ、農作物 山河あり、人心あり
中央集権 高度成長時代	戦後復興、大量生産、物作り、 工学的機械的システム思考 ＜人為的人工構造物＞	工業用地、埋立、護岸、ダムなどの 公共工事、環境破壊、農作放棄 出稼ぎ、大学進学、中央への陳情、 都市からの富の再配分
成熟社会	社会、格差拡大、 人心破れ 、閉塞感、孤立感、自分さえよければ症候群	空家・耕作放棄地・山河破る、高齢化社会、若者がいなくなった
地域間競争 分権社会	LNG；ローカル/ナショナル/ グローバルへ生き方の分極 スローライフへの指向増加	ふるさと回帰、共生・生命原理 ＜互助＞＜共助＞のシステム思考 金銭から心身の豊かさへ、農山村生活 と自然への畏怖の感性涵養へ

新たな人の流れは、都市から田舎へ、あらたな国取り、国移りの**地域間競争ソフトエンジニアリングの時代来る！！**

「農山村耕作遊撃隊」クラブ 協力者募集 設立準備中

☆志：～西郷さんが下野して取組んだ明治8年吉野開墾社の現代版復興～

☆ 具体的活動方針

田舎の空家・耕作放棄地・里山などを有効活用しながら仲間と楽しく遊ぶ！

☆三原則

- 1. きまじめにならず、遊び心と長い目の志をもって、楽しむこと**
- 2. 老人は、その余暇と知恵をもって、若者の生き方を応援すること**
- 3. 若者は、因循姑息を破り新しい時代に向かって老人たちを利用すること**

☆だれが何をするか

1. 耕作放棄地等の所有者は、日本国土保全のために有償無償で土地を貸す
2. 大学などのサークル・同好会が、空家を部室・合宿所として利用する
3. 大学などの学生たちが、年間に一定期間単位で、農作業等に従事する
4. 老人たちは、定期的に田舎との人的交流機会を増やして、田舎で過ごす
5. サラリーマン社員は、土日休日に趣味活動として、農作業等に従事する
6. ソフト経営者は、社員の半農半ソフトの複業・兼業化を、社内制度として推進する
7. 政治家は、地域活性化の観点から以上の活動を支援するように、役所の窓口となる

